

授業科目名		担当講師名		対象学年	
病理学		岩崎 勇登		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (15)	教室	後期		
実務経験	本科目は、医師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	病気を正しく認識する。病気の原因、内因、外因を理解する。				
到達目標	疾病の成り立ちと病変の特徴の基礎的知識を習得する。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	第1章 病理学で学ぶこと：病気の原因、公害病・医原病・職業がん 第2章 細胞・組織の障害と修復、炎症
2・3	第3章 免疫、移植と再生医療 炎症の各型、アレルギーと自己免疫疾患 臓器移植、骨髄移植 第4章 感染症 第5章 循環障害：浮腫、充血とうっ血、出血、血栓症、塞栓症 虚血と梗塞、ショック
4・5	第6章 代謝障害：脂質代謝障害、糖尿病、痛風、黄疸など 第7章 老化と死：死の三徴候、脳死と植物状態など 第8章 先天異常と遺伝子異常：染色体異常による疾患
6・7	第9章 腫瘍：腫瘍の広がり（リンパ行性転移、血行性転移、播種など） 第10章 生活習慣と環境因子による生体の障害
8	終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
疾病理解の基礎知識		大里 勝行 脇田 真由美 中島 久代 長井 安代 池田 恵子		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	看護教員による疾病理解の授業。解剖生理と病態、治療、検査をつなげるために教員の講義や協同学習によって自己学習力を養う。				
到達目標	疾病の成り立ちや治療・検査等の基礎知識がわかる。				
事前学習	事前学習課題にそって自己学習を行い授業に臨む。				

授業計画

No.	授 業 内 容	
1・2	循環器系の解剖を確認し、心臓の働きと症状、心臓負荷の病態や動脈硬化について理解する。	大里
3・4	負のフィードバック、ホルモンの作用機序の知識を活用し、甲状腺機能亢進症・副腎疾患の成り立ちや治療を理解する。	脇田
5・6	インスリンに関する知識を活用し、糖尿病の成り立ち、合併症、薬物療法について理解する。	
7・8	脳神経系の疾患としてくも膜下出血の病態や合併症、神経難病について理解する。	中島
9・10	泌尿器系疾患として腎不全の病態や治療、血液透析・腹膜透析・生体腎移植について理解する。	長井
11・12	血液の生理と造血の仕組みの知識を活用することで、白血病の病態と症状について理解する。	池田
13・14	免疫の仕組みに関する知識を活用し、免疫の異常であるアレルギー性疾患・自己免疫疾患の成り立ちを理解する。	
15	まとめ 終講試験	
履修上の要件		
テキスト、教材、参考書	医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 （循環器、内分泌・代謝、脳・神経、腎・泌尿器、血液・造血器、アレルギー膠原病感染症）	
成績評価の方法	全科目を併せて筆記試験	
備考	全科目を併せて1単位	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
疾病と治療Ⅰ 運動器		三重 岳		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(10)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、医師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	加齢 外傷 2次障害 生活習慣 機能回復 自立				
到達目標	運動器疾患の病因、病変の特徴を理解する				
事前学習	運動器の構造と機能を復習しておく				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	第3章 症状とその病態生理 「疼痛」「形態の異常」「関節運動の異常」「神経の障害」
2	第4章 診断・検査と治療・処置 「X線」「MRI」「超音波検査」「シンチグラフィー」 「保存療法(ギプス、牽引)」 「手術療法(骨接合術、人工骨頭置換術)」
3・4・5	第5章 疾患の理解 「骨折(総論、各論)」「脱臼(総論、各論)」 「捻挫及び打撲(足関節捻挫、むちうち損傷、腰部捻挫)」 「筋・腱・靱帯などの損傷(筋断裂、アキレス腱断裂、手指の腱断裂、膝内障、区画症候群)」 「先天性疾患(傾斜、脱臼、内反足)」 「骨・関節の炎症性疾患(脊椎カリエス、関節リウマチ、痛風、偽通風)」 「骨腫瘍」「代謝性骨疾患」「主要な末梢神経損傷」 「脊椎の疾患(変形性脊椎症、腰椎症、腰部脊柱管狭窄症、 脊柱靱帯骨化症、椎間板ヘルニア、脊椎分離症およびすべり症、 脊椎の姿勢異常、骨粗鬆症、特発性大腿骨頭壊死症)」
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 運動器 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院
成績評価の方法	疾病と治療Ⅰ(脳・神経、女性生殖器)を併せて筆記試験
備考	疾病と治療Ⅰ(脳・神経、女性生殖器)を併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
疾病と治療Ⅰ 女性生殖器		弓指 里萌		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(10)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、医師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	リプロダクティブ・ヘルス、女性生殖器疾患の検査、治療について学習				
到達目標	女性生殖器疾患の病態と検査、治療について理解することができる。				
事前学習	女性生殖器の構造と機能を復習しておく				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	第3章 症状と病態生理 出血 帯下 疼痛 発熱 自律神経症状 不定愁訴など
2	第4章 診察・検査と治療・処置 内診、膣鏡診など 治療器具 病理検査(細胞診、組織診) 画像検査 治療・処置(薬物療法)
3	第5章 疾患の理解 性分化疾患(性染色体異常に伴う疾患) 機能的疾患(月経異常、不妊症、感染症) 臓器別疾患(子宮の疾患、卵巣の疾患、外陰・膣の疾患)
4	第5章 疾患の理解
5	まとめ 終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 病理学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
成績評価の方法	疾病と治療Ⅰ(脳・神経、運動器)を併せて筆記試験
備考	疾病と治療Ⅰ(脳・神経、運動器)を併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
疾病と治療Ⅰ 脳・神経		高口 剛 田中 俊一		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (10)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、医師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	生活習慣病 難病 慢性疾患 機能障害 QOL				
到達目標	脳神経疾患の病因、病変の特徴を理解する				
事前学習	脳神経系の構造と機能を復習しておく				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	第3章 症状と病態生理 「意識障害」「高次機能障害」「運動機能障害」「感覚機能障害」 「反射性運動の障害」「頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア」「髄膜刺激症状」
2	第4章 検査・診断と治療・処置 「神経学的検査」「髄液検査」「脳血管撮影」「CT・MRI」「脳波」 外科的治療法 内科的治療法
3	第5章 疾患の理解 「脳疾患」クモ膜下出血 脳内出血 脳梗塞 TIA 水頭症 「脳腫瘍」「頭部外傷」
4	第5章 疾患の理解 「認知症」「てんかん」 「脳神経系の感染症」脳炎 髄膜炎
5	第5章 疾患の理解 「筋疾患・神経筋接合部疾患」「脳・神経系の変性疾患」 パーキンソン病 筋萎縮性側索硬化症 多発硬化症 ニューロパチー ギランバレー症候群 顔面神経麻痺 重症筋無力症 進行性筋ジストロフィー ヤコブ病 中毒症
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学
成績評価の方法	疾病と治療Ⅰ（運動器、女性生殖器）を併せて筆記試験
備考	疾病と治療Ⅰ（運動器、女性生殖器）を併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
疾病と治療Ⅱ 呼吸器		長田 一希		2年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (10)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、医師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	呼吸器疾患の症状・病態生理・検査・治療について理解する。				
到達目標	呼吸器疾患の医学的な基礎知識を知る。				
事前学習	呼吸器の構造と機能を復習しておく				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	第3章 症状とその病態生理 咳嗽 血痰・喀血 胸痛 呼吸困難 チアノーゼ 発熱
2・3	第4章 検査と治療・処置 喀痰検査 胸水検査 画像診断（気管支鏡、生検、呼吸機能検査） 吸入療法 酸素療法 人工呼吸療法 呼吸リハビリテーション 胸腔ドレナージ 外科的手術
4	第5章 疾患の理解 感染症（かぜ、インフルエンザ、肺炎、結核） 間質性肺疾患 気道疾患（気管支喘息、気管支拡張症、慢性閉塞性肺疾患） 肺循環疾患（肺血栓塞栓症、肺高血圧症）
5	第5章 疾患の理解 呼吸不全 呼吸調節に関する疾患（過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群） 肺腫瘍 肺・肺血管の形成異常 胸膜・縦隔・横隔膜の疾患 肺移植 胸部外科
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
成績評価の方法	疾病と治療Ⅱ（血液リンパ、腎・泌尿器）を併せて筆記試験
備考	疾病と治療Ⅱ（血液リンパ、腎・泌尿器）を併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
疾病と治療Ⅱ 血液リンパ		喜入 厚		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(10)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、医師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	遺伝子 化学療法について 骨髄移植 易感染				
到達目標	血液・造血器疾患の病因、病変の特徴を理解する				
事前学習	血液の生理と造血のしくみを復習しておく				

授業計画

No.	授 業 内 容
1・2	第3章 検査・診断 身体所見(貧血、発熱、リンパ節腫脹、出血傾向など) 末梢血検査、骨髄穿刺、骨髄生検、リンパ節生検 症候・病態生理 「白血球増加症」「白血球減少症」「脾腫」「リンパ節腫脹」「出血性素因」
3	第4章 疾患と治療の理解 赤血球の異常 「鉄欠乏性貧血」「巨赤芽球性貧血」「再生不良性貧血」「溶血性貧血」 白血球の異常 「無顆粒球症」「伝染性単核球症」 出血性疾患 「特発性血小板減少性紫斑病：ITP」「血友病」 「播種性血管内凝固症候群：DIC」 など
4	第4章 疾患と治療の理解 造血器腫瘍とは 造血器腫瘍治療(化学療法、支持療法、造血幹細胞移植など) 「白血病」「成人T細胞白血病リンパ腫」「悪性リンパ腫」
5	まとめ 終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院
成績評価の方法	疾病と治療Ⅱ(腎・泌尿器、呼吸器)を併せて筆記試験
備考	疾病と治療Ⅱ(腎・泌尿器、呼吸器)を併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
疾病と治療Ⅱ 腎泌尿器		玉井 元規		2年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (10)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、医師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	腎泌尿器疾患について理解し、自己管理に向けた援助を学習する。				
到達目標	腎泌尿器疾患の病態、検査、治療について理解することができる。				
事前学習	腎・泌尿器の構造と機能を復習しておく				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	第3章 症状とその病態生理 尿の異常、排尿に関連した症状、浮腫、脱水、尿毒症
2・3	第4章 検査と治療・処置 腎機能検査、画像検査、経尿道的操作及び内視鏡検査 手術療法 放射線療法 透析療法 腎移植 腎炎、前立腺肥大症、前立腺癌の症状と検査、治療
4	第5章 疾患の理解 急性腎不全・慢性腎不全 ネフローゼ症候群 糸球体腎炎 糖尿病性腎症
5	第5章 疾患の理解 尿路・性器の腫瘍（腎がん、尿管がん、前立腺がん） 尿路結石症 尿路の通過障害と機能障害（水腎症、膀胱尿管逆流症、神経因性膀胱尿失禁 前立腺肥大症） 男性生殖器疾患 感染症
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院
成績評価の方法	疾病と治療Ⅱ（血液リンパ、呼吸器）を併せて筆記試験
備考	疾病と治療Ⅱ（血液リンパ、呼吸器）を併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
疾病と治療Ⅲ 歯科口腔		安 忠大		2年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (6)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、医師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	歯科口腔疾患を学び、保健指導、口腔ケアの方法について学習する				
到達目標	歯科口腔疾患の病態と検査、治療について理解することができる。				
事前学習	歯・口腔の構造と機能を復習しておく				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	第3章 症状とその病態生理 痛み 腫脹 口腔出血 顎口腔機能障害
2	第4章 検査と治療・処置 歯と歯周組織の検査 嚥下機能検査 画像検査 口腔清掃
3	第5章 疾患の理解 齲蝕および歯髄疾患 口腔領域の炎症(歯肉炎 歯周疾患 下顎骨髄炎) 口腔粘膜の疾患
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 歯・口腔 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院
成績評価の方法	疾病と治療Ⅲ（感覚器耳鼻科、眼科、皮膚アレルギー・膠原病）を併せて筆記試験
備考	疾病と治療Ⅲ（感覚器耳鼻科、眼科、皮膚アレルギー・膠原病）を併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
疾病と治療Ⅲ 感覚器耳鼻科		向井 奉文		2年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (6)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、医師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	耳鼻の疾患、検査、治療、感覚、老化、ストレスについて学習する。				
到達目標	耳鼻科疾患の病態、検査、治療について理解することができる。				
事前学習	耳鼻咽喉・頸部の構造と機能を復習しておく				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	第3章 症状とその病態生理 耳鼻、口腔、唾液腺、咽頭・喉頭にあらわれる症状と病態生理
2	第4章 検査と治療 聴力検査、平衡機能検査、内視鏡検査他 耳の処置、鼻の処置、手術療法
3	第5章 疾患の理解 耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頸部疾患
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門基礎分野Ⅱ 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院
成績評価の方法	疾病と治療Ⅲ（歯科口腔、眼科、皮膚アレルギー・膠原病）を併せて筆記試験
備考	疾病と治療Ⅲ（歯科口腔、眼科、皮膚アレルギー・膠原病）を併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
疾病と治療Ⅲ 眼科		郡山 昌敬		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (6)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、医師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	眼科疾患に伴う機能障害と活用できる社会資源を学ぶ				
到達目標	眼科疾患の病因、検査、治療について理解することができる				
事前学習	眼の構造と機能を復習しておく				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	第3章 症状とその病態生理 視機能に関連した症状（視力障害 視野異常 眼精疲労 飛蚊症など） 視機能に関連しない症状（充血 眼脂 羞明 異物感など）
2	第4章 検査と治療・処置 視力検査 屈折検査 眼底検査 視野検査など 点眼法 洗顔法 屈折矯正 光凝固 涙嚢洗浄 手術療法
3	第5章 疾患の理解 白内障 緑内障 角膜炎 網膜剥離 加齢黄斑変性 糖尿病性網膜症 など
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 眼 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院
成績評価の方法	疾病と治療Ⅲ（歯科口腔、感覚器耳鼻科、皮膚アレルギー・膠原病）を併せて筆記試験
備考	疾病と治療Ⅲ（歯科口腔、感覚器耳鼻科、皮膚アレルギー・膠原病）を併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
疾病と治療Ⅲ 皮膚・アレルギー・膠原病		吉崎 愛 向井 奉文・岩崎 勇登		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (1 2)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、医師として実務経験のある教員による講義				
学修内容	アレルギー、膠原病、皮膚疾患を理解し、医療保障制度を学ぶ				
到達目標	アレルギー、膠原病、皮膚疾患の病態と検査、治療について理解することが出来る				
事前学習	皮膚の構造と機能を復習しておく 免疫機能について復習しておく				

授業計画

No.	授 業 内 容	
1	【皮膚科】 第3章 症状とその病態生理 原発疹と続発疹 掻痒（かゆみ）皮膚の老化 第4章 検査と治療・処置 免疫アレルギー検査 光線過敏性検査 病原微生物の検査 など 外用療法 手術療法 光線療法 レーザー療法	吉崎
2	第5章 疾患の理解 表在性皮膚疾患、真皮・皮下脂肪組織および皮膚付属器 脈管系の移譲による皮膚疾患	
3	第5章 疾患の理解 物理・化学的皮膚損傷、主要および色素異常症 感染症、全身性疾患に伴う皮膚病変	
4	【アレルギー・膠原病】 アレルギー：第4章 診断・検査と治療 第5章 症状と疾患の理解	向井
5	膠原病：第3章 症状とその病態生理 第4章 検査と治療 第5章 疾患の理解	岩崎
6	まとめ 終講試験	
履修上の要件		
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 皮膚 医学書院	
成績評価の方法	疾病と治療Ⅲ（歯科口腔、眼科、感覚器耳鼻科）を併せて筆記試験	
備考	疾病と治療Ⅲ（歯科口腔、眼科、感覚器耳鼻科）を併せて1 単位	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
疾病と治療Ⅳ 消化器		福田 皓佑		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (10)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、医師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	消化器疾患の症状・病態生理・検査・治療について理解する。				
到達目標	消化器疾患の医学的な基礎知識を理解する。				
事前学習	消化器の構造と機能を復習しておく				

授業計画

No.	授 業 内 容
1・2	第3章 症状と病態生理 嚥下困難 腹痛 吐血・下血 便秘 食欲不振と体重減少 黄疸
3	第4章 検査と治療 糞便検査 肝機能検査 腹部単純X線検査 胆道および膵管の検査 内視鏡検査（上部消化管 大腸）肝生検 薬物療法 栄養療法 手術療法（内視鏡下手術、術後ドレーン類の管理）
4	第5章 疾患の理解 食道・胃の疾患（食道がん、胃・十二指腸潰瘍、胃がんなど） 腸および腹膜疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病、大腸がんなど）
5	第5章 疾患の理解 肝臓・胆嚢の疾患（肝炎、肝硬変など） 膵臓の疾患 急性腹症 腹部外傷
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院
成績評価の方法	疾病と治療Ⅳ（循環器、内分泌）を併せて筆記試験
備考	疾病と治療Ⅳ（循環器、内分泌）を併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
疾病と治療Ⅳ 循環器		請園 友之・東 祐大		2年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (10)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、医師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	循環器疾患を学び、モニタリングと自己管理の方法について学習する				
到達目標	循環器疾患の病態と検査、治療について理解することができる。				
事前学習	循環器の構造と機能を復習しておく				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	第3章 症状とその病態生理 胸痛 浮腫 チアノーゼ めまい・失神 四肢の疼痛 ショック
2・3	第4章 検査と治療 心電図のみかた 胸部X線検査 心エコー検査 心臓カテーテル検査 内科的治療（経皮的冠動脈インターベンション、ペースメーカー治療） 外科的治療（冠動脈バイパス術 弁膜症に対する手術など）
4	第5章 疾患の理解 虚血性心疾患 狭心症、急性心筋梗塞 心不全の診断・治療 血圧異常 不整脈、
5	第5章 疾患の理解 弁膜症 先天性心疾患（ファロー四徴症） 大動脈瘤 閉塞性動脈硬化症 深部静脈血栓症
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
成績評価の方法	疾病と治療Ⅳ（内分泌、消化器）を併せて筆記試験
備考	疾病と治療Ⅳ（内分泌、消化器）を併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
疾病と治療Ⅳ 内分泌		森田 喜紀		2年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (10)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、医師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	内分泌と代謝疾患を学び、慢性疾患の特徴と自己管理の方法を学習する				
到達目標	内分泌と代謝疾患の病態と検査、治療について理解することができる。				
事前学習	内分泌・代謝の構造と機能を復習しておく				

授業計画

No.	授 業 内 容
1・2	第3章 症状とその病態生理 体重変化・身長異常 容貌の変化 神経・筋症状 第4章 検査 ホルモンの血中濃度測定 ホルモン負荷試験 糖尿病の診断に用いる検査 インスリン抵抗性検査 脂質異常症の診断・治療に関連した検査
3	第5章 疾患の理解―内分泌疾患 視床下部・下垂体系疾患 甲状腺疾患 副甲状腺疾患 副腎疾患 性腺疾患 内分泌疾患の救急治療
4	第5章 疾患の理解―代謝疾患 糖尿病 脂質異常症、肥満症とメタボリックシンドローム 尿酸代謝異常
5	まとめ 終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院
成績評価の方法	疾病と治療Ⅳ（循環器、消化器）を併せて筆記試験
備考	疾病と治療Ⅳ（循環器、消化器）を併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
臨床薬理		東 耕世		2年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、薬剤師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	薬物治療を理解する。				
到達目標	薬理学の基礎を学ぶ 臨床で使われている薬剤について理解する。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	第1章 薬理学を学ぶにあたって
2・3・4	第2章 薬理学基礎知識：薬力学・薬物動態・薬物相互作用 薬物の個人差に影響する因子・有益生と危険性・薬と法律
5	第3章 抗感染症薬
6	第4章 抗がん薬
7	第5章 免疫治療薬
8	第6章 抗アレルギー薬・抗炎症薬
9	第7章 末梢での神経活動に作用する薬物
10	第8章 中枢神経系に作用する薬物
11	第9章 循環器系に作用する薬物
12	第10章 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物
13	第11章 物質代謝に作用する薬物（ホルモン・ビタミン）
14	第12章 皮膚科用薬・眼科用薬 第13章 救急の際に使用される薬物 第14章 漢方薬 第15章 消毒薬 輸液製剤・輸血剤 看護業務に必要な薬の知識
15	まとめ 終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院 今日の治療薬 総合医学社
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
栄養学		向井 祐美		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (15)	教室	後期		
実務経験	本科目は、管理栄養士として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	保健・医療における栄養学・栄養素の種類と働き、臨床栄養				
到達目標	1. 健康にとっての栄養の意義を学ぶ。 2. 食事療法の意義と食事指導の必要性を理解する。				
事前学習	予め教科書を読んでおくこと。				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	栄養を学ぶということ 朝食について (DVD) 日本の食文化 (DVD) 視聴 感想文提出 保健・医療における栄養学 看護と栄養 (グループワークまとめ提出)
2・3	栄養素の種類とはたらき 欠乏症 糖質、脂質、タンパク質、ビタミン A、ビタミン D、ビタミン E ビタミン K、ビタミン B 群、ビタミン C、ミネラル 食物繊維、水
4・5	食物の消化・栄養素の吸収
6	臨床栄養 1. 栄養補給法 病院食 経腸栄養製品 静脈栄養法 疾患別・症状別食事療法
7	エネルギー代謝 基礎代謝量、推定エネルギー必要量 ライフステージと栄養 健康づくりと食生活
8	終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 医学書院 糖尿病食事療法のための食品交換表 文光堂
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
微生物と感染症		小林 徳龍		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (30)	教室 化学実験室	前期・後期		
実務経験	本科目は、大学での講義や研究などの実務経験のある教員による講義				
学修内容	病原微生物、感染症について理解する。				
到達目標	微生物の人体に及ぼす影響を理解し、免疫機構の重要性を学ぶ。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	第 1 章 微生物と微生物学：微生物とは、微生物の歴史、特徴
2	第 2 章 微生物の性質：細菌の形態と特徴、培養環境と特徴
3・4	第 3 章 真菌の性質：細菌の培養、代謝 細菌の遺伝と変異、細菌の増殖
5	第 6 章 感染と感染症
6	第 8 章 感染症発生要因、感染源経路
7	第 9 章 滅菌と消毒 薬剤耐性
8	細菌培養とコロニー観察 (演習)
9	第 12 章 感染症の現状と対策：日和見感染、院内感染、ワクチンと予防接種
10・11・12	第 7 章 感染に対する生体防御機構：自然免疫のしくみ 獲得免疫のしくみ
13	第 13 章 病原細菌と細菌感染症
14	第 16 章 病原ウイルスとウイルス感染症
15	まとめ レポート・終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
臨床検査の基礎		島名 英作		1 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (15)	教室	後期		
実務経験	本科目は、臨床検査技師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	検体検査、生体検査の目的や方法を理解する。データーを読み取る。				
到達目標	臨床検査における看護師の役割を理解する。 臨床検査の意義や目的を理解し、検査データーを解釈することができる。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	第1章 臨床検査とその役割 第2章 看護師の役割
2	第3章 一般検査
3	第4章 血液検査
4	第5章 生化学検査
5	第6章 免疫・血清学的検査
6	第9章 病理学的検査 第10章 生体検査
7	第7章 内分泌的検査：ホルモン検査
8	終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 検査・データーがまるごとわかる本 慧文社
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
治療論		大木 浩 中村 健太郎 郷原 未沙伎 徳田 智大		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	教室	前期		
実務経験	本科目は、医師として実務経験のある講師による講義。				
学修内容	手術侵襲、麻酔の基礎知識、麻酔管理、ME 機器 救急医療の基礎知識、一次救命処置、災害医療 放射線医学の基礎知識、放射線検査、放射線治療、放射線防護				
到達目標	麻酔及び手術の侵襲について理解する。 ME 機器の特徴について理解する。 救急医療・看護の特徴を理解する。 放射線診療の動向、放射線による検査・治療を学び、検査・治療における看護師の役割を理解する。				
事前学習	テキストを読んでおく				

授業計画

No.	授 業 内 容		
1	第 1 章 外科医療の基礎 手術侵襲と生体の反応、サイトカインによる生体調節機構 第 2 章 外科治療を支える分野：麻酔法 グループワーク：よい麻酔とは？	大木	
	2		麻酔の種類：全身麻酔、局所麻酔、全身麻酔とその薬
	3		脊髄くも膜下麻酔と硬膜外麻酔
	4		手術侵襲の評価 術前評価・麻酔がリスクな患者とは（グループワーク） 術前・術中・術後の管理、呼吸管理、体液・栄養管理、輸血療法、緩和医療
	5		モニターと術後回診 医療機器の原理と実際
6	救急医療とは、救急医療システム、救命救急センター 救急医療の対象と救急患者のアセスメント	中村	
7・8	B L S 講習（心肺蘇生・A E D 講習、ドクターヘリ見学）		
9	災害医療：我が国の災害医療体制、トリアージとは、CSCATTT		
1 0	主要症状に対する救急処置 外傷、ショック、意識障害、熱傷、中毒、刺咬傷、熱中症 救急車搬入前後の行動、重症患者受け入れの準備（GW） 1 分で判断すること、1 0 分で判断できること		
1 1	医療における放射線医学の役割 画像診断（検査）における看護師の役割 被ばく・副作用・磁場等の影響と安全	放射線科	
1 2	X 線診断、X 線の適応と禁忌、CT・MRI の特徴と検査方法、代表的な画像		
1 3	超音波検査の特徴、核医学検査の特徴、検査時の注意点 I V R・血管造影検査と合併症		
1 4	放射線治療総論、主な放射線治療と放射線による障害・防護		
1 5	まとめ 終講試験		
履修上の要件			
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護総論 医学書院		
成績評価の方法	麻酔・手術・ME と救急医療と放射線を併せて筆記試験		
備考	麻酔・手術・ME と救急医療と放射線を併せて 1 単位		

授業科目名		担当講師名		対象学年	
リハビリテーション論		秋山洋一 安田勇之進 平城修吾		2年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・GW	1 (15)	教室 実習室	前期		
実務経験	本科目は、 として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	運動療法、ADLの評価、ROM、MMT、良肢位、起居動作、多職種				
到達目標	自立した生活を目的としたリハビリテーションの意義と方法について、その実 際を学び、看護活動に応用する基礎的能力を養うとともに多職種について理解 し多職種連携について学ぶことができる。				

授業計画

授 業 内 容	
No.	
1	リハビリテーションの基本と実際 (講義) 多職種の理解、多職種連携、運動療法
2	ADLの評価、ROM、MMTの理解 良肢位 (演習) 半身麻痺のある対象者の起居動作、移乗動作
3	階段昇降、福祉機器を使用した移乗動作 (演習)
4	言語聴覚士の役割 (講義) コミュニケーション障害への対応
5	摂食、嚥下障害 嚥下障害の予防、誤嚥時の対応、 (演習) 認知症の摂食障害に対するアプローチ
6	作業療法士の役割 退院支援、社会資源の活用 (講義)
7	日常生活動作への援助 (演習)
8	終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	